

AMDAが緊急医療ネット

医師会、2000の医療機関と

民間の国際医療援助団体、AMDA（アジア医師連絡協議会、本部・岡山市）が日本医師会、全日本病院協会（全日病）と共同で地域防災民間緊急医療ネットワークを構築する構想が、

十八日までにとまとまった。民間病院組織と連携することで、災害時に迅速で効果的な医療活動が期待できる。近く実現の運びで、

来月十六日、神戸市の兵庫県医師会館で三者共催の第一回フォーラムを開く。

航空、行政関係者、ボランティア団体など約百人が参加、役割分担なども話し合う。

兵庫県医師会の瀬尾攝会長（日本医師会理事）は「震災は行政の限界を示した。十分な治療ができず、歯がゆい思いをした医師が多かったが、それぞれの能力を生かせば一人でも多くの命を救えるはず」と話している。

阪神大震災でも救援活動に携わり、緊急救援のノウハウを持つAMDAが、両会に呼びかけて合意。会員約十三万人の医師会、約二千の医療機関が所属する民

構想では、活動拠点となる病院や担当医師、ボランティアをあらかじめ登録。災害などの緊急時に情報交換するほか、全国を七ブロックに分け、各ブロックに

フォーラムは「相互扶助と社会貢献」をテーマに開くが、三者のほかに通信、